

(2003年5月28日理事会決議)

2002 (平成14) 年度事業報告書

1. 保護研究事業

(1) 保護系プログラム

1) 川辺川

熊本県川辺川・球磨川、宮崎県一ツ瀬川などにおいて市民参加による河川環境の把握のための定期調査を実施。県民討論集会で調査データを公表するなど、川辺川ダム計画の見直しへの働きかけを継続。

2) 諫早干潟 (一部、自然保護助成基金およびWWF・日興グリーンインベスターズ 基金助成事業)

貧酸素水塊の発生する夏季とノリ養殖への影響が懸念される冬季に、漁民・市民参加によって諫早干潟・有明海の環境変化を調べる「ありあけ大調査」を実施。科学的な影響のメカニズムを紹介したビデオの作成を準備。

3) 沖縄地域 (一部、自然保護助成基金助成事業)

辺野古ジュゴン生息地 / 市民参加によって海草藻場環境の把握のための定期調査「シーグラスウォッチ調査」を実施。日米政府へ普天間飛行場代替施設移設計画の見直しを求める意見を提出。

中城湾泡瀬干潟 / 埋立事業の見直しを求める意見を提出し、海草移植藻場の現況調査を実施、結果を関係機関に配布。3/29に「泡瀬干潟シンポジウム」を開催 (於: 東京・富士ゼロックス(株)本社講堂、WWFジャパン・日本野鳥の会共催、約150名参加)。

沖縄島やんばる、八重山諸島 / 状況の監視と地域会員・関係機関との情報交換を継続。新石垣空港計画に関し、沖縄県が作成した環境影響評価方法書に対する意見を提出。

4) 自然公園・保護地域

尾瀬至仏山 / 日光国立公園尾瀬地区における至仏山登山道問題、廃棄物埋立問題、携帯電話アンテナ設置問題などに意見を提出。11/17に「国立公園シンポジウム 尾瀬をどう守るか」を開催 (於: 東京・こどもの城、国際山岳年日本委員会共催、約140名参加)。至仏山保全基本計画の策定に関する検討委員会に参画。

法制度等 / 改正自然公園法における利用調整地区制度や特別地域の動物捕獲規

制に関する検討委員会に参画。中部山岳国立公園乗鞍スカイライン問題に関し、地元団体と提言を提出。早池峰国立公園に関し、地元団体と早池峰フォーラムを共催、提言の提出を準備。自然公園内における風力発電施設の建設に関し、意見を提出。

## 5) 野生生物

野生生物小委員会において、既存関係法のあり方と基本法の必要性に対する提言をまとめ公表、一般向け図書の出版を準備。野生鳥獣保護管理に関する検討委員会に参画。基本法の制定をめざし、野生生物保護法制定をめざす全国ネットワークとともに法制局へ協議の働きかけ。

## 6) 自然再生推進法

自然再生推進法(案)に対し、生物多様性の確保や市民参加などが図られるようWWFジャパン・日本野鳥の会と共同で改正を働きかけ。

## 7) 地域NGO等への支援・協力

地域NGO等との連携により、各地の自然保護問題に意見・コメントの提出、委員会への参画等の協力(「2002年度財団法人の記録」を参照)。  
自然保護に関わる各種の催事等に後援等の協力(頁末、別表1参照)。  
自然保護に関わる研修等の講師への職員派遣/環境研修センター、林野庁森林技術総合研修所、林野庁関東森林管理局、水資源開発公団研修所、国土交通省国土交通大学校等の職員研修にて実施。

## 8) IUCN日本委員会(一部、藤原基金活用事業)

当委員会事務局として定例会議を開催、IUCNからゲストを招き意見交換会も実施。当委員会ホームページをIUCN本部と同デザインに改訂。

## (2) 研究系プログラム

### 1) 植物群落RDB(レッドデータ・ブック)の自然保護への活用

植物群落RDB活用委員会において、植物群落の現状追跡調査のあり方やモニタリングの重要性とその手法を示す書籍の出版について検討。  
海岸植物群落に関し、データ解析・補足調査を行いその結果をとりまとめ。市民参加型の全国調査企画を検討、調査マニュアル案を作成。

### 2) 「人と自然との豊かなふれあい」に関する研究

「里やまにおける自然とのふれあい活動～人とのふれあいの観点からの里地自然の保全方策策定調査報告書」を発行(8月)。

### 3) 生態系総合モニタリング

里やまにおける市民参加型の生態系総合モニタリング手法の構築に関し、次年度以降の調査実施に向けて調査地選定や調査体制づくり等を準備。

#### 4) プロ・ナトゥーラ・ファンド助成(自然保護助成基金との共同事業)

2002年度(第13期)助成に関し、募集・審査・助成を実施(頁末、別表2参照)。

2001年度(第12期)助成に関し、運営を管理、12/7に成果報告会を開催(於:東京・こどもの城、約100名参加)。

2000年度(第11期)助成に関し、成果報告書を発行。

#### 5) 自然保護ライブラリー(J.INOUYE基金活用事業)

書籍・報告書・ニュースレター・ビデオ等の登録・分類のほか、データベースおよび事務局内LAN検索システムの整備を継続。

## 2. 普及広報事業

### (1) 環境教育系プログラム

#### 1) 環境教育事業に関する検討

関係する理事を中心にワーキンググループを発足、12月より定期ミーティングを開催、指導員養成事業や指導員以外の環境教育事業のあり方等に関して検討。

#### 2) NACS-J自然観察指導員の養成

NACS-J自然観察指導員講習会の開催/16回開催、918名が受講(頁末、別表3参照)。第1回からの総受講者数は19,052名。

NACS-J自然観察指導員研修会の開催/5回開催、156名が参加(頁末、別表4参照)。

自然観察指導員養成講師会議の開催/今年度講習会の振り返りと次年度講習会に向けた情報共有のための意見交換を実施(2月)。

会報「自然観察指導員のページしぜんテイナー」コーナーの企画・責任編集。

自然観察指導員連絡会等への協力/地区交流会・記念総会等へ出席・講演の協力。

#### 3) 自然観察会の開催

「ネイチャ・フィーリング自然観察会」の開催/4/29に「新宿御苑みどりの日の集い」の一環として開催。

「全国一斉自然かんさつ会2002 みぢかなしぜんかんさつ」の開催/各地の自然観察指導員・会員に呼びかけ、全国44カ所で開催。

#### 4) 「インターネット自然しらべ 海・湖沼編」企画の実施

例年実施してきた「自然しらべ」をインターネットを用いて実施(募集期間:7/20(海の日)~11/30、報告件数:153件、参加者数:985名、協賛:JT・損保ジャパン・宝酒造・トヨタ自動車・ニコンビジョン・本田技研工業)。

#### 5) 外部事業への協力

環境教育に関わる催事等に後援等の協力（頁末、別表1参照）。  
環境教育に関わる研修等の講師への職員派遣 / 横浜市スポーツ振興事業団、日本野生動物医学会、環境研修センター等の職員研修・学会等にて実施。

## 6)NACS-J刊行物等の頒布

会員サービスの一環として、NACS-J刊行物の催事等での直接販売とカタログによる通信販売（業務委託）を継続。

### (2) 広報系プログラム

#### 1) 会報『自然保護』の誌面のあり方に関する検討

外部協力者を中心にワーキンググループを発足、4月より定期ミーティングを開催、誌面刷新の方向性や毎号の企画・構成に関して検討。

#### 2) 会報『自然保護』の発行（一部、特定用途寄付積立預金・運営基盤整備積立預金活用事業）

年8回（第465号～第472号）、各約19,000部発行（4, 7/8月号は全36頁、5, 6月号は全24頁、9月より隔月発行に変更、9/10, 11/12, 1/2, 3/4月号は全44頁）。

#### 3)NACS-J印刷物の表現イメージコーディネート

組織名のロゴタイプを基調に、報告書表紙・パンフレット等印刷物の表現イメージを統一化。

### (3) 会員拡大系プログラム（一部、牧田基金・運営基盤整備積立預金活用事業）

#### 1) 個人会員拡大事業のあり方に関する検討

外部協力者を中心にワーキンググループを発足、4月より定期ミーティングを開催、プログラムの効果点検・新企画立案、現会員の入会動機・意識調査等を実施。

#### 2) 印刷物等の文字媒体による個人会員拡大

「入会パンフレット」の改訂・配布 / 内容・デザインを一部改訂し、全国約500ヶ所への設置や希望者への無料送付を実施、寄付サポーター企業（モンベル）のDMへの同封を依頼。

ユース会員の拡大 / ユース会員案内ステッカーを貼った入会パンフレットを作成、学校関係の役員に配布協力を依頼。

フリーペーパー「Shippo」の作成・配布 / 寄付サポーター企業（サニクリーン）による協賛をもとに、会報の中ページとその別刷りを作成、全国約300ヶ所への設置や希望者への無料送付を実施。

「会員紹介キャンペーン」企画の実施 / 会報を通じて、会員に知人への入会勧誘の協力を呼びかけ。

退会者への再入会案内DMの実施 / 昨年度退会者に対し、再入会を呼びかけるDMを送付、退会理由に関するアンケートを実施。

### 3) 参加の場の提供による個人会員拡大

「本命なぎさマップ」企画の実施 / 告知カードの配布等により全国からお気に入りの海辺（渚）情報を募集、NACS-Jホームページに掲載し人気投票を実施。アクションサポーター制度の整備 / 会員・寄付拡大事業に労力を提供して下さった方の、アクションサポーターへの登録を準備。

### 4) 外部イベント等への協力を通じた個人会員入会告知

環境情報研修、エコリーグ合同新入生説明会、朝日新聞広告、品川区市民大学講座、千葉・本須賀海岸イベント、モンベル展示会、エコプロダクツ展、キャンプ&RVショーNPOフェスティバル、地球環境映像祭等にて実施。

### 5) 電子媒体による情報発信

NACS-Jホームページ / NACS-Jの発表資料等を中心に順次掲載（週に約2回更新）。

電子メール「自然保護ニュース」 / NACS-Jの活動紹介を中心に無料配信（月に約2回、登録者約10,000名）。

### 6) 寄付サポーターの拡大

「寄付パンフレット」の配布 / 寄付パンフレット「1000円プリーズ」を増刷、賛助会員企業（オートバックスセブン）の店舗等に配布協力を依頼。特定の保護活動への寄付案内チラシを作成、会員のほか都内約300社の企業に寄付協力を呼びかけ。

オンライン少額寄付企画の広報 / 電子メール等で、インターネット経由での少額寄付（投げ銭システム）への協力を呼びかけ。

企業等による寄付協力企画の受付 / 衣類・CD・美術作品・自動車等の販売やショッピングポイント企画等による寄付企画に対し、支援を依頼。

## 3. 受託事業

### (1) 小笠原村南島自然環境モニタリング調査（東京都より受託）

小笠原諸島南島における人為（人の立入りと過去のヤギの食圧等）による植生変化、裸地化および土壌侵食の状況把握調査、また全島の気象観測、植物相調査、海鳥（オナガミズナギドリ）の分布調査、利用状況調査を実施。

### (2) 新座市妙音沢における急傾斜地崩壊対策工事にかかる生物調査（埼玉県より受託）

埼玉県新座市妙音沢の急傾斜地指定に伴う対策工事が生物に与える影響を最小化するよう助言し、工事の影響のモニタリングを実施。

### (3) ネイチャア・フィーリング研修会の開催（静岡県より受託）

11/30-12/1に、静岡県自然学習指導員、NACS-J自然観察指導員、養護学校教員、福祉施設職員等を対象に当研修会を開催(於:静岡県立浜北森林公園、約40名参加)。

#### (4) 国際生物多様性情報の収集(環境省より請負)

IUCN本部・ボン環境法センター・ケンブリッジ事務所への現地訪問等により、情報を収集。国内の生物多様性重要地域に関し、北海道東部地域を事例に文献・現地調査を実施。

#### (5) シナリオ・ワークショップ開催のためのワークショップ設計およびシナリオ執筆・作成(科学技術振興事業団より請負)

東京湾三番瀬の将来像に関して、東京電機大学の若松教授グループによるシナリオワークショップのためのシナリオ設計を実施。

### 4.50周年記念事業

#### (1) 「NACS-J50年誌」の制作(事業実施積立預金活用事業)

『自然保護のあゆみ 尾瀬から天神崎まで 日本自然保護協会三十年史』を復刻した上巻と、1980年代初頭からの20年にわたる活動をテーマ別にまとめた下巻、データ・図表等を収録したCD-ROMの3部からなる『自然保護NGO半世紀のあゆみ 日本自然保護協会五〇年誌』を、12月に平凡社より発行。関係者約350名・団体に寄贈、会員等に販売。

#### (2) 第2回日本自然保護協会沼田眞賞

NACS-J50周年を機に2001年度に創設した日本自然保護協会沼田眞賞に関し、第2回の授与式および受賞者による記念講演会を10/13に開催(於:愛知大学)。受賞者は、名古屋女子大学助教授・村上哲生氏(河口堰・ダムが河川生態系に与える影響メカニズムの解明への貢献)、日本イヌワシ研究会(イヌワシの研究ネットワーク構築による希少猛禽類の生息地保全への貢献)。

### 5.運営基盤の整備(運営基盤整備積立預金活用事業)

#### (1) 新事業の企画立案

自然保護をとりまく社会状況・ニーズの変化に対応した新しい事業スタイルとテーマ設定のための検討、候補プロジェクトの企画立案と次年度着手に向けた準備を実施。地域組織ネットワークづくりについても研究を継続。

#### (2) 会員データ管理システムの整備

4月の会員規程改定や9月の会報発行形態変更に伴い、会員データシステムとその登録管理、会員への登録手続連絡システム等を改良。

以上

<別表1.> 自然保護に関わる催事等への後援・協力・職員派遣一覧

( )内は主催団体と開催時期

- 第19回自然は友だち～わたしの自然観察路コンクール(国立公園協会、6/1 - 12/31)
- 東京湾・干潟保全シンポジウム(小櫃川河口・盤州干潟を守る連絡会、6/23)
- 長良川DAYシンポジウム(公共事業チェックを求めるNGOの会、7/7)
- 国際湿地シンポジウム2002～ラムサール会議に伝えたい日本の湿地再生(日本湿地ネットワーク、7/14)
- 第43回夏休み子供自然観察教室(利根沼田自然を愛する会、7/28)
- 第5回有明海・不知火海フォーラム(同実行委員会、8/3)
- 第13回全国トンボ市民サミット福井県敦賀大会(同実行委員会、8/24 - 25)
- コウモリフェスティバル2002in富士山(コウモリの会、8/24 - 25)
- 緊急シンポジウム「吉野川河口干潟を救え！」(吉野川・東京の会、10/5)
- 砂防ダムを考える全国集会in七飯・函館(同実行委員会、10/12 - 13)
- 博物館構想に関する県民提言シンポジウム(千葉まちづくりサポートセンター・千葉県自然保護連合、11/9)
- 公共事業再考シンポジウム～九州川辺川と東京高尾山をつなぐ(清流川辺川を守る東京の会、11/16)
- 2002国際地質環境ワークショップ(同実行委員会、11/16 - 17, 20 - 21)
- シンポジウム「吉野川河口干潟と東環状大橋(仮称)の建設」(吉野川ひがたの会、11/24)
- 第17回ニッセイ財団助成研究ワークショップ(日本生命財団、11/27)
- 第5回(2003年)「日本水大賞」(日本水大賞顕彰制度委員会)
- エコツーリズム国際大会・沖縄(同実行委員会、11/28 - 12/1)
- 第11回オオタカ保護シンポジウム(日本オオタカネットワーク、11/30)
- 第15回日本の森と自然を守る全国集会「未来につなげよう森と里山」(同実行委員会、11/30 - 12/2)
- 第5回「早池峰フォーラム」(同実行委員会、12/1)
- 藤前干潟ラムサール登録報告とこれからを考える集い(藤前干潟を守る会、12/21)
- 「四万十ヤイロチョウの森トラスト」関東地区(東京)第1回報告会(高知県生態系保護協会、12/23)
- テレビ50周年「環境メッセージ」関連事業(NHK・共同通信社、1/14 - 3/31)
- 2003「三番瀬」～山から川へそして海(同実行委員会、1/18)
- 横浜市野外活動施設職員専門研修会(横浜市スポーツ振興事業団、2/14)
- 第3回SAVE21東京湾まち育てコンテストin東京港野鳥公園(SAVE21実行委員

会、2/16)

2003九州環境教育ミーティングin阿蘇 (同実行委員会、3/1 - 2)

市民からの環境アセスin名護 (同実行委員会、3/15,29)

21世紀協働の時代の生態学を語る～環境保全と自然再生 (日本生態学会、3/23)

計 / 29件

## &lt;別表2.&gt; プロ・ナトゥーラ・ファンド助成事業2002年度 (第13期)

No.	研究テーマ	グループ・機関名	代表者 [ ] : 推薦者	助成額 (万円)
・国内調査研究				
1	中部空港島周辺における底質・底生生物を中心とした水域環境変化に関する研究	空港島周辺海域環境研究会	八木 明彦	100
2	父島のオガサワラオオコウモリの保全生態学的研究	オガサワラオオコウモリ研究グループ	稲葉 慎	100
3	北方四島 (国後島) の生態系 - 陸上動植物相調査 -	特定非営利活動法人 北の海の動物センター	大泰司 紀之	200
4	えびの高原におけるシカの行動様式の変化について - 餌付けがシカに与える影響 -	えびのシカリサーチグループ	遠藤 晃	88
5	在来マルハナバチ類保護のためのセイヨウオオマルハナバチの野生化状況の評価と駆除方法の開発	セイヨウオオマルハナバチ野生化問題研究グループ	横山 潤	85
6	島原半島における淡水紅藻オキチモズクの保全と遺伝子解析	オキチモズク保全研究グループ	飯間 雅文	95
7	世界最南限のイワナ個体群 “キリクチ” の保全生態学的研究	淡水生物研究会	渡辺 勝敏	70
8	イワメ (無斑型アマゴ) の生息環境と保護	西日本淡水魚類研究会	近藤 卓哉	80



9	淡路島の農村地域のため池群における生物多様性保全に関する研究	淡路棚田研究会生物多様性研究グループ	一ノ瀬 友博	70
・国内活動				
10	東京湾の干潟を中心とする環境の保全	千葉の干潟を守る会	大浜 清	100
11	干潟を守る日2003in諫早	干潟を守る日2003in諫早実行委員会	山下 八千代	50
12	吉野川河口干潟周辺における「人と自然とのふれあい」をベースにした環境マップの作成	とくしま自然観察の会	井口 利枝子	75
13	日本における[自然の権利]運動の記録(～2002.12)	[自然の権利]セミナー	佐久間 淳子	100
14	エゾシカ猟用鉛弾を原因とするワシ類の鉛中毒に対する防止活動	市民団体 ワシ類鉛中毒ネットワーク	黒澤 信道	57
15	希少植物「カワラノギク」の保護・育成	はむら自然友の会	岡崎 学	14
16	霧ヶ峰の草原生態系と景観の保全のためのシンポジウム開催と報告書の作成・活用	霧ヶ峰ネットワーク	熊田 章子	97
17	チゴハヤブサの調査保護と子供達への環境教育活動	札幌チゴハヤブサの会	東郷 典彰	44
18	大規模開発の迫った京阪奈丘陵の里山での市民による生き物調査の実施	生駒の自然を愛する会	琢磨 千恵子	20
19	市民版日高横断道路「時のアセス」の作成	「止めよう日高横断道路」全国連絡会 常任委員会調査部	小島 望	65
・海外調査研究				
20	インドネシア・西ジャワ海及びナツナ海における絶滅に瀕したタイマイ繁殖個体群の現状の把握とその資源回復対策の確立	インドネシアウミガメ研究センター	Mr.A.Yusuf [ 亀崎 直樹・NPO日本ウミガメ協議会 ]	119

21	中国海南島における野生哺乳類の保護区設定と保護システムの確立	中国海南師範学院 海南野生動物保護管理研究センター	李 玉春 [ 小金澤 正昭・宇都宮大学農学部附属演習林 ]	91
22	ネパールシワリク山地の生態学的研究：動的景相域における生物種維持管理	リソース・ヒマラヤ	Dr.D.R.Bhujū [ 尾崎 煙雄・千葉県立中央博物館 ]	120
23	低地熱帯林の生態系指標としてのカワリクマタカ (Spizaetus cirrhatus) に関する調査 - スンバウ島、コモド島、フロレス島に生息する亜種を対象として -	Y P A L ( 原生自然保護協会 )	Mr.W. Raharjaningtrah [ 乾 由布子・(財)日本野鳥の会 ]	130
24	石門台 (シメントイ) 国立自然保護区におけるチョウ類のモニタリング	中国華南農業大学昆虫生態学研究室	王 敏 [ 矢田 脩・九州大学大学院比較社会文化研究院 ]	115
助成金総額				2,085

<別表3.> 自然観察指導員講習会開催地一覧

No.	開催日	開催地	会場	共催団体	参加数
311	5/10～12	八王子	大学セミナー・ハウス (東京)	NACS-J主催	48
312	5/31～6/2	神奈川県	芦ノ湖キャンプ村	神奈川県自然観察指導員連絡会 (グリーンタフ)	60
313	6/14～16	三重県	厚生年金休暇センター	三重県、自然観察指導員三重連絡会	62
314	6/21～23	静岡県	静岡県立朝霧野外活動センター	静岡県教育委員会、富士宮市教育委員会、静岡県自然観察指導員会	59
315	7/12～14	神奈川県	富士ゼロックス (株) 塚原研究所	富士ゼロックス (株)	60
316	7/20～22	千葉県	千葉県立鴨川青年の家	千葉県	60

317	8/9～11	青森県	岩木青少年スポーツセンター	NACS-J主催	49
318	8/23～25	佐賀県	国民宿舎いろは島	佐賀県、自然観察指導員佐賀県連絡会	53
319	8/30～9/1	茨城県	鹿行生涯学習センター・レイクエコー	茨城県	59
320	9/14～16	広島県	ふれあいの里青年の家	広島県自然観察指導員連絡会	56
321	9/21～23	東京都	新島クリエートセンター/宿泊：温泉ロッジ	新島自然愛好会	60
322	10/12～14	福岡県	国立夜須高原少年自然の家	福岡県自然観察指導員連絡協議会	62
323	10/18～20	長野県	国立信州高遠少年自然の家	自然観察指導員長野県連絡会	60
324	11/2-4	山梨県	山梨県立愛石山少年自然の家	自然観察指導員山梨県連絡会(ノラやまなし)	61
325	11/15～17	大阪府	大阪市立信太山青少年活動センター	NACS-J自然観察指導員大阪連絡会	59
326	3/22～23	千葉県	千葉市ユース・ホステル	NACS-J主催	50

<別表4.> 自然観察指導員研修会開催地一覧

No.	開催日	テーマ	会場	共催団体	参加数
116	11/16～17	ネイチャア・フィーリング研修会	刈谷勤労福祉センター (愛知県刈谷市)	愛知県	31
117	11/30～12/1	ネイチャア・フィーリング研修会	県立森林公園森の家(静岡県北浜市)	主催：静岡県/企画・運営：NACS-J	43
118	1/31～2/2	地域の自然を読み解く研修会～生き物編～	市川市少年自然の家(千葉県市川市)	NACS-J主催	15

119	3/7 ~ 8	地域の自然を読み解く研修会 ~ 地図編 ~	十日市場地区センター・県立四季の森公園 (神奈川県横浜市)	NACS-J主催	20
120	3/22 ~ 23	自然観察会でのリスクマネージメント研修会	島根県立青年自然の家 (島根県)	島根県、島根県自然観察指導員連絡協議会	47

---

Copyright(c)2003 THE NATURE CONSERVATION SOCIETY OF JAPAN, All rights reserved.